

学校法人
函館大谷学園 〒041-0852 北海道函館市銀台1-2-3 TEL(0138)51-5614 FAX(0138)52-6494
 HPアドレス http://www.hakodate-otani.ac.jp

函館大谷高等学校 〒041-0852 北海道函館市銀台1-2-3 TEL(0138)52-1834

函館大谷女子短期大学 [函館大谷短期大学]に改称予定
 2002年4月男女共学スタート 〒041-0852 北海道函館市銀台1-2-3 TEL(0138)51-1786

函館大谷女子短期大学附属 大野幼稚園 〒041-1242 北海道亀田郡大野町市原506-8 TEL(0138)77-9275

函館大谷女子短期大学附属幼稚園 〒041-0851 北海道函館市本通2丁目18-6 TEL(0138)56-1038

(広告掲載：藤野 明信 会員)

◎ 5月29日出席報告

会 員	51名	出席率対象会員	49名
		出席規定免除会員	2名
		出席率規定免除会員	1名
当日出席	24名	当日欠席	25名
他クラブ出席	12名	出席合計	36名
出席率	75.00%		

・ テレホンサービス(例会移動案内)電話 23 - 2377 番

次回・6月26日
プログラム

会長・幹事・各委員長 退任挨拶



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2001~2002年度 国際ロータリーテーマ
 国際ロータリー会長 リチャード D. キング

人類が私たちの仕事 MANKIND IS OUR BUSINESS

薮下 義晴 会長テーマ 『楽しみと親しみのある出逢い・そして感動』



6月12日卓話 遠藤 茂氏

《第1876回例会》 第46号 6月19日(水)

本日のプログラム

夜間例会「ディナー&リレーコンサート」

函館国際ホテル 午後6時

★会 長 薮下 義 晴 ★幹 事 藤野 明信

例会場:函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
 例会日:毎週水曜日 12:30~13:30 事務局:函館市大手町5-10 ニチロビル4F TEL23-3870

6月12日の記録

◎司 会 薮下 義晴 会長 ◎斉 唱 我等の生業

◎ゲ ス ト 北海道T・P・M会会長 北海道教育者モラロジー研究会副会長
全国教育者モラロジー研究会理事 遠藤 茂 氏

◎次年度ガバナー補佐報告 松見 修二 会員

○9日にガバナー補佐の引継ぎ及び各委員長の引継会議がありました。現在各R.C.に事前訪問に回っていて、函館五稜郭R.C.と江差R.C.来週は函館東R.C.を予定しております。

◎会長報告 薮下 義晴 会長

○6月22日江差R.C.創立40年記念式典で会長出席予定しております。

◎幹事報告 藤野 明信 幹事

○会員推薦がありました。異議の申し立てのある方は6月18日までに書面にて理事会へご提出ください。
○他クラブ例会変更 6月17日函館亀田R.C.夜間例会、20日函館R.C.移動例会、27日函館R.C.夜間例会、28日函館五稜郭R.C.夜間例会

◎親睦活動委員会 成田 豊 委員長

ニコニコBOX投入報告

薮下会長……6月9日次男の結婚式無事終わりました。

遠藤先生をお迎えして。

藤田会員……本日の講師遠藤先生を歓迎して。

松見会員……なんとなく。

田畑会員・金子会員・小笠原会員・大和会員・伊藤会員・森 会員・新 会員・

千葉会員……BOXに協力。

◎卓話「徳を尚ぶこと、学知金権より大なり」

北海道T・P・M会会長 北海道教育者モラロジー研究会副会長
全国教育者モラロジー研究会理事 遠藤 茂 氏

現在、私共は北海道P・T・M会を作って30年になり、文部科学省にも推薦を戴いております。このP・T・M会とは、教育関係者(T)、保護者(P)、モラロジー研究者(M)が、ともに心の教育の研究と実践によって、自らを高め、確固とした道徳観を基盤とする学校・家庭・社会づくりをめざす団体です。

モラロジー(moralogy)とは・・・「道徳」を表すモラル(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。その研究内容は、日本はもとより世界の道徳・倫理の比較研究を行い、人間がよりよく生きるための指針を探索・提示するもので、人間、社会、自然のあらゆる領域を研究対象とした総合人間学です。我々は、短時間では改善する事のできない心の教育を、長期で取り組んで、活動しております。

現代は価値多様化の時代であり、人々は正しい価値基準を見失っています。私たちは、ややもすると品性の大切をわすれ、学力、知力、金力、権力などを獲得しさえすれば、幸福になれるものと誤解しています。そして、そのような力を獲得するために、政治上、経済上はもちろん、あらゆる方面で激しい競争を行っています。

確かに学力、知力、金力、権力などは人間生活の上で必要な要素ではありますが。しかし、これらの諸力を正しく生かす品性が伴わなければ、一時的な成功は得られても、永続的な幸福を生み出すことはできません。

たとえば、一生懸命に苦勞、努力をして財産を築いても、あるいは、社会的な地位や名譽を得たとしても、後半生において病気をしたり、手塩にかけて育てた子供に背かれたり、周囲の人々からうとまれるようなことになれば、なんのために苦勞、努力をしてきたのかわかりません。これでは、かけがえのない人生が無意味なものになってしまいます。

私たちは、とかく目に見えるものは大切にしますが、目に見えないものはおろそかにしがちです。木にたとえるならば、幹とか枝葉は目に見えますが、根は見えません。木はそれを支えるだけの根をしっかりと大地に張り、養分や水分をたえず幹や枝葉に送り続けています。したがって、根が枯れば、その木の寿命は終わるのです。このように、目に見えない品性、すなわち徳こそ人間生活を支える根本です。

私たちが自分の人生を意義あるものにすめためには、日常生活の中でさまざまな力を蓄えるとともに、根本である品性をたえず向上させることが肝要です。

(会報担当者：田畑 収 会員)